

I. 目的(A)と動機・history(B)

A: Y型(広義の多文化)共生・共創の町になること(指定モデル地区として特区施策を)

B: 学生時代まで育った町・弟が知的障害者・青年学級と兄弟姉妹の会活動・英国での研究生活・中米

独英留学生研究者教官等の指導交流・京都光技術研究会と光夢倶楽部活動等で得た問題意識から

II. 実家を留学生の「ホーム・光」と「山下光・交流研究室」にするまでの経過

・4年以上前から10以上の京滋の福祉関連指導者・機関に次々と個人的に根気よく相談・模索してきた

・その結果 本年2月やっと多文化サロン・希望の家の前川さん・叶さん(以後M)と出会った

「早急課題→地域の需要者(例 広義多文化ハンデキャップ者)と供給者(例 空スペース所有者)とに

ついでに能動的情報収集機関の設置と能動的コネクターの配置」・・・特区施策1

III. その後の多文化サロンからの紹介・調整と山下(以後Y)が行ったこと

・前川さん(M)の設定によりサロンの春祭り実行委員会で本件をYから具体的紹介(2月後半:目的・

概略間取り図案・リフォーム代全額Y負担・借料考慮等説明)→現地見学会(3月初め)→地域

の「アジアの希望300(以後A:留学生寮)」と「エルファ(グループホーム)」とが利用希望→Yから

非営利的借料提示→Mが両者を調整→シェア案から前者単独案に・Mが要約案作成確認→A

に決定後Yが希望を聞き全面リフォーム着手(5月初め)と専門テナント交えての契約→8月第4

週完成(特別サイズ3LDK2階屋:下記および写真参照:他にYの小研究室)→9月初め4中国

留学生入居・留学生ホーム・光と研究室とのシェア交流スタート

「早急課題→多文化交流・福祉用空家利用リフォーム経費公的負担優遇制度の実施」・・・特区施策2

IV. これからの具体的活用内容

- ・2F—3室; 3院生1学部生専用居寝学習室(鍵:トイレ1:ベランダ)、1F—1L室; 談話くつろぎ交流食堂・
専用台所バス洗面洗濯所(鍵:トイレ2:入口1)、1F—1室、山下専用研究室(鍵:トイレ3:入口2)

V. 留学生の活動に期待すること→日中をつなぐ草の根となり両国の平和の担い手に

- ①地域の人達との交流学び合い→町内会活動(挨拶・回覧配布・体育祭・祭り・マダン等)の参加と助け合い→留学生の経済的負担を少なくして広義の学習活動時間を増やし活かす
- ②日中文化・歴史・未来について学び合う→定期団欒・興味の啓発・ミニ講演会(光夢倶楽部等)
- ③留学生とYの経験・人材ネットワークを拡大交流・助っ人紹介(国内大学の外国人先生留学生交流)

VI. 「早急課題—特区施策まとめ」

1. 地域のきめ細かい助け合い(複合差別文化・高齢者・1人住まい・障害者・病弱者・..)の仕組み確立

- ①各細分野の専門助っ人情報の収集・登録・資格承認・紹介相談部局の設置—地域シニア人材の経験・専門・ゆとり時間・空家財産の活用・メールアドレス活用等
- ②地域住民各人が抱えている問題情報の収集のための能動的部局の設置—町内会長・民生委員(充実化)・地域NPOへの積極的訪問参加・個人情報アンケート第二質問限定了解欄追加(例国勢調査)
- ③上記両者の積極的なコネクター人材を配置・実行—常時現場実態積み重ね把握充実を(ネット活用)
- ④上記目的のための市による経済的支援・税制優遇制度の実施

2. 地域市有財産の限定期間レンタル制度・リフォーム活用などの実施—例豊島新区役所

- ①「前山王小学校・前陶化小学校・空店舗市営住宅の活用」と「芸大移転・光悦タウン計画と地域住民居住空間・娯楽・アトリエ・演劇舞踏音楽(マダンも)練習の場のシェア施策」との融合横断効率的実施

・上記課題は縦割り行政では困難なため横断的部局を創り特区施策として実行を「生きる:黒澤明 see」

